平成 25 年度 第 2 回 石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 平成 25 年 9 月 30 日 (金) 午後 2 時～ 4 時
会 場 石狩市公民館第一研修室
出席者 委 員 長：木村純
副委員長：大橋修作
委 員：高橋たい子、設楽正敏、石井量子、山田治己、佐久間有里、福志穂、宮田あゆみ、
相馬保、古村えり子、平紀子、光川怜子、高橋美恵子
事務局 社会教育課(兼公民館)：課長 東信也、主査 樋口潤作、主査 斉藤晶
社会教育主事：西山隆之(兼社会教育課主任)
傍 聴 無し

会議内容

1 事務局より報告(樋口主査)

定刻となりましたので、第 2 回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。会議次第に入る前に、社会教育委員の交代についてご報告いたします。青木委員でございますが、諸事情により、7 月に退任する旨、届け出がありました。大変残念ではございますが、ご本人の意思を尊重し、了承いたしました。後任については、石狩市私立幼稚園振興会にご推薦をお願いいたしまして、花川マリア幼稚園園長 福志穂様をご推薦いただきまして、7 月 24 日付で委嘱をしたところですので、この場でご報告させていただきます。

1 木村委員長あいさつ

今日はご多忙の中お集まりいただきましてありがとうございます。皆様のご協力のもと、社会教育委員と学ぶ講座を開催し、本日第 3 回目を迎えるわけですが、石狩市の高齢者の移動手段や孤立化について起きている問題や、また厚田区にどんな地域課題があって、地域の方々がどんな取り組みをしているのかについて、私自身大変勉強になりました。

今日の講座を含めてあと 3 回講座があります。第 5 回目の社会教育施設についてのテーマでは、国立教育政策研究所の笹井先生に来ていただくことになっております。今の日本の社会教育を考える上で、最も適任の方であると思っておりますので、大変楽しみにしており、また、社会教育委員の会議としても、これからますます委員の皆様にご活躍をお願いいたします。今日は報告事項と、石狩市芸術文化振興奨励補助金について協議します。よろしくお祈いします。

2 報告

(1) 平成 25 年度石狩管内社会教育関係職員等研修会(7 月 5 日 当別町) (設楽委員より報告)

当別町は、私が現在校に赴任する前の前任地でもありましたので、感慨深く参加してまいりました。会場は駅前ふれあい倉庫という、農協の倉庫を改装した所でした。本市からは社会教育委員 5 名と、市職員 3 名の計 8 名が参加いたしました。基調講演については、元厚田村教育長の河内先生が講演されました。端的には、社会教育が現在曲がり角を迎えているが、迷った時には原点に戻り、そこから先を見通せという言葉が非常に印象に残りました。次に当別町の事例紹介として 2 つの団体事例の発表がありました。1 つ目は、当別町歴史ボランティアの会と、その立ち上げに関わった元社会教育主事の下村氏から、ボランティアの経緯について説明があり、まちの新たな人材発掘として歴史ボランティア活動を進めているとのことでした。2 つ目は、当別文芸の会の取り組みについてでした。事務局長の堀江氏は、私の前任校の当別小学校の隣で、家庭文庫と子ども図書館を長年やっている方でした。毎月例会を開催し、当別文芸とい

う冊子を毎年作っている様子や、継続することの重要性を発表されておりました。前任地という思い入れもさることながら、当別町で社会教育が脈々と受け継がれていることに感銘を受けました。

(2) 第33回北海道市町村社会教育委員長等研修会（7月8日～9日 札幌市）

（大橋副委員長より報告）

札幌市のかでる2.7で開催されました。参加者は木村委員長と大橋副委員長、西山社会教育主事の3名でした。私達が今取り組んでいる、高齢者や障がいのある方の孤独死や孤立化、限界集落や人間関係に起因するいじめや虐待などの地域課題が、この研修会でも取り上げられており、特に、人と人のつながりをどう広げるかというテーマで設定されておりました。東北芸術工科大学の松田道雄教授により基調講演が行われ、今まで以上に私達が人と人のつながりを広げていく、交流し合うことの大切さが話されておりました。

2日目は分科会に分かれ、私はシニア世代の経験を生かしていこうというテーマのグループに入り、いしかり市民カレッジのことや公民館で開催されている講座など、石狩市の紹介をしながら、他市町村の取り組みを聞いてまいりました。

(3) 第53回北海道社会教育研究大会（9月19日～20日 根室市）

参加者は、私と西山社会教育主事の2名でした。ちょうど台風20号に見舞われ、釧路～根室間のJRが不通になり、急遽移動手段を変更して何とか根室にたどり着きました。根室大会の研究主題は「社会教育委員は、青少年活動の充実のために何をどう進めるか」でした。1日目は、全国社会教育委員連合の大橋謙策会長による基調講演とパネルディスカッション、2日目は6つのテーマごとに分科会が行われました。内容についてはとても多岐に渡りますので、お手元の資料をご一読願えればと思います。

7月と9月の研修会、研究会に参加し、現在石狩市で取り組んでいる内容（コミュニティの現状と課題）が、全道でも重点的に取り組まれている内容であったことから、石狩市が積極的な取り組みをしていることを実感しました。残り3回の講座についても期待しております。

木村委員長：ご報告ありがとうございました。同行された委員や職員の方から、何か補足はございますでしょうか。

西山社教主事：特に7月5日の社会教育関係職員等研修会には、5名もの委員の皆様にご参加いただきありがとうございました。この研修会は管内市町村持ち回りで開催しており、市町村の実態についてよく理解できる研修会となっておりますが、当別町の具体例について肌で感じていただけたのではないかと思います。また、他市町村からは、石狩市の社会教育委員活動が活発だというお声をいただいておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

木村委員長：委員の皆様には、いろいろな場面でご尽力いただきありがとうございました。国が予算をどんどん減らしていく中で、成人教育という観点からは、社会教育は危機にあると感じております。それを打開していくためには3つのことが必要であると考えております。1つ目に、社会教育の専門職員が地域課題をもっと取り上げていく能力を高めていくこと、2つ目に社会教育委員が地域のリーダーとして頑張っていくということ、3つ目に、そのためには地域の課題を住民の学習課題にしていくような社会教育計画の作成が重要であるということであると考えております。特に国の政策の中では、社会教育主事については比較的議論されておりますが、社会教育委員についてはあまり議論されていないので、全国社会教育委員連合の大橋会長も感じられていることと思います。その中では、石狩市の社会教育委員は、皆様のご尽力のおかげもあり、積極的な役割を重ねてきていると感じております。それと同時に、その成果を今後どう活かしていくのかを考える上で、私の責任も高まっていると思います。

3 芸術文化振興奨励補助金について （事務局 西山社会教育主事より説明）

それでは議事の「平成 25 年度石狩市芸術文化振興奨励補助金」について、事務局よりご説明申し上げます。まず、「石狩市芸術文化振興奨励補助金」の制度についてでございますが、「芸術・文化の振興を図るため、市民が自主的、主体的におこなう芸術文化活動費の一部を補助、支援」させていただくという制度で、平成 9 年に創設いたしました。

本補助金交付要綱の第 5 条において、「補助金を交付しようとするときは、社会教育委員の会議の意見を、あらかじめ聴くものとする」としていることから、本日この会議において、ご審議をお願いさせていただくものです。なお、補助金の支出上限額につきましては、補助対象経費の 2 分の 1 以内であり、かつ、1 事業あたり 50 万円以下となっております。

前回の会議の中でもご報告申し上げましたが、今年度の当補助金については、当初の募集期間において申請がなかったことから、期日を 7 月 19 日までとして再募集した結果、1 件の申請がありました。なお、概要については資料をご覧ください。

事業名は「泉流恵千翔会 泉恵千翔 師籍 30 周年記念公演」、事業者は「泉流恵千翔会 富木 須磨子」です。事業内容は、「日頃の練習成果の発表、ならびに日本舞踊・郷土芸能公演会の開催」となっております。

日本の伝統文化である日本舞踊、とりわけ本格的な古典舞踊の発表の場とするほか、越後盆踊り保存会など、市内の郷土芸能団体にも参加を呼び掛けており、市民が幅広く日本伝統文化にふれることができる公演を実施するとのこと。日程、場所は「平成 25 年 1 月 24 日 花川北コミュニティセンター」、集客予定として、一般市民 300 人を見込んでおります。

団体の普段の活動は、定期公演会、市民文化祭といった市内での発表のほか、石狩市社会福祉協議会のボランティア協会に加入し、地域において広くボランティア活動を展開しております。結成は昭和 59 年、会員数は計 18 人、規約および役員を整えており、団体要件として問題はございません。また、市内 14 人、市外 4 人とある通り、会員の大半が石狩市内在住であることから、市内団体としても問題はございません。

補助対象基準としましては、当該補助金交付要綱で定めている区分のうち、芸術文化活動振興事業(1)という区分の、「演劇、音楽、郷土芸能、美術、文芸等の研修及び発表その他これに類する地域文化の振興に寄与すると認められる事業」に該当いたします。総事業費予算額は 72 万 3 千円となっております。内訳は、花川北コミセンの会場使用料 3 万 5 千円、会場設営にかかる賃金 1 万円、ちらし、プログラム等の印刷製本費 7 万円、案内状送料等の通信運搬費として役務費 3 千円、音響、照明、舞台等にかかる業者への委託料 45 万円、着付師や顔師等の旅費 10 万円、司会やビデオ撮影等にかかる報償費 4 万円、記念品等にかかる原材料費 1 万 5 千円、以上となっております。なお、このうち、原材料費 1 万 5 千円をのぞく、70 万 8 千円が補助対象経費となります。

これらの経費について、「補助金交付額は、補助対象経費の 1/2 以内である」という基準を満たしていることから、要望額通り、26 万円を交付内定額(案)として提案させていただきますので、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

木村委員長：花川北コミュニティセンターを使用する場合、委託料は共通しておおよそこの規模の費用がかかるのでしょうか。

西山社教主事：委託する業者によって、金額には幅があるようです。本件では、照明効果などをしっかり行いたいとのことから、これだけの費用がかかるとのこと。

木村委員長：入場料はとらないのでしょうか。

西山社教主事：チケット販売は行うとのこと。

木村委員長：事業費に入場料収入が計上された上で総予算額が算出されていると思いますが、入場料はいくらに設定されておりますでしょうか。

西山社教主事：1 人あたり 800 円とのこと。

木村委員長：交付要望額と同程度の規模の収入を見込んでいるということですね。収支の関係上、補助金を受けると大幅な黒字になるという訳ではないですね。

- 西山社教主事：自己資金の持ち出しも相当額ありますので、その心配は無いと思われま
- す。
- 木村委員長：委託料がかなりかかっているようですが、補助金で足りない部分を自己負担と入場料でまかなうということになりますね。他の事業においても、補助金が果たす役割としては同様と考えてよいということですね。
- 樋口主査：委託料については、練習準備なども含めて2日分の稼働が必要であるため、この金額が計上されております。
- 古村委員：師籍とありますが、舞踊のお師匠さんにあたるのでしょうか。
- 西山社教主事：事業者が泉恵千翔という方で、教え始めてから30年目にあたるとい
- うことになります。
- 木村委員長：計画概要を見ると、公演はこの流派だけではなく、他の伝統文化団体にも声かけをしながらやるということと、この団体自体が日頃から様々なボランティア活動をしているということですね。
- 設楽委員：原材料費はなぜ補助対象外になっているのでしょうか。
- 西山社教主事：費目では原材料費とありますが、内訳は記念品を配るなどの内容ですので、補助対象外としております。
- 山田委員：内容については問題ないと思います。しかし、現在文化団体が60団体以上あるのに、今年度は募集当初、補助金への申請が無く、締切を伸ばした結果、応募1件という結果でした。実際には、文化団体は色々事業をやっているが、ほとんどが赤字に近いと思います。そういう状況でなぜ申請が無いのかということと、申請書類が非常に複雑であるという話も聞きますので、何とかできないのだろうかと思いました。
- 石井委員：小さな団体は、長年活動していても、明確な規約などを備えていない場合が多いと思います。そのため、申請書類などがなかなか書けずに諦めてしまうという声も聞いたことがあります。
- 木村委員長：この団体は文化協会の加盟団体なののでしょうか。申請時に、手続きや書類の作り方でわからない部分は相談に応じるという行政の姿勢が、団体に周知されているかどうか
- が重要だと思います。
- 樋口主査：昨年度は4団体からの申請がありましたが、書類のやり取りなどをしながら、不明な部分はその都度お手伝いをさせていただいております。補助金そのものについては、2年続けて申請できないことや、ある一定程度の予算規模が必要であるなどの条件がありますので、そのあたりを検討していかないと、小規模な団体に補助することができないと思います。
- 東課長：補助申請をしようとしても、実際にハードルが高いということは、小規模の団体にとっては有り得ることだと思います。規約や予算書などクリアできない書類は、担当職員がサポートさせていただいて、少しでも団体の活性化に寄与することもあるのではないかと考えております。補助申請手続きについては、最初の申請時の書類は必要最小限にしておりまして、実施したい事業の概要について書いていただくことになっており、詳しい書類は交付内定以降になります。とは言え、団体の皆様は書類を書き慣れておりませんので、難しく感じられることはあるか
- と思います。しかしながら、補助金を交付するという
- ことは、誰が見ても、はっきりとわかる内容で書類を提出していただく必要があるということをご理解いただいた上で、職員がサポートさせていただきながら手続きをお願いしたいと考えております。この事業の魅力
- をいかにして広めていくかという点と、手続上の課題があるという点は了解しましたので、今後整理をしていきたいと思
- います。
- 石井委員：せっかくある制度ですので、使いやすい方がよいと思います。団体も高齢化が進んでおりますから、窓口でたくさん書類を貰っても書き方がわからない、規約も無いというような点について、行政にサポートしていただきたいと思
- います。
- 木村委員長：説明会のようなものは開催していないのでしょうか。
- 東課長：開催しておりませんが、その方がわかりやすいということであれば、方策の一つと思
- います。
- 石井委員：制度の周知はどのようにしているのでしょうか。
- 東課長：制度の周知は、広報に掲載するほか、文化協会にもご案内させていただいております。

- 古村委員 : 団体運営のてびきのようなものがあれば、規約の作り方や会計などがわかりやすいかもしれませんね。
- 石井委員 : ひな型があると良いですね。
- 高橋委員 : 社会教育関係団体登録の手続き書類は、記入例がありますよね。あれはとても書きやすいと思います。
- 木村委員長 : 皆様のご意見は、市民活動をどう発展させていくかということにも関わっておりますので、必ずしも教育委員会だけではなく、NPO担当部局なども交えながら、市民活動の発展について考えていくことが、市民の学習活動に対する課題だと思います。私は札幌のまちづくり市民活動促進テーブルという組織の委員長をしております。札幌市の場合は毎年数千万規模の寄付金が寄せられておまして、それを団体はどう配分するかという協議をしますが、札幌市も申請団体がどんどん固定化してきて、なかなか間口が広がっていかないという課題があります。ほかに本件団体への補助金交付について依存はありませんでしょうか。
- 各委員 : ありません。
- 大橋副委員長 : 団体の中には、自分たちの活動が補助対象になるとは思っていない団体があるのではないのでしょうか。そういったまだ申請をしていない団体に案内を出してはいかがでしょうか。
- 東課長 : 本来必要としている団体にしっかり届いていない可能性があるため、そこをしっかりと捉えてPRしていくべきだということですね。
- 大橋副委員長 : 具体的にどんな手だてがあるか現時点ではわかりませんが、検討してはいかがでしょうか。
- 木村委員長 : 他にございませんか。これで議題は全て終わりましたが、私から皆様にお諮りしたいことがございます。昨年度の議論を踏まえて、今年度から石狩市のコミュニティの現状と課題として皆様に講座を担当していただいておりますが、最終的にはその結果も踏まえた報告書を作りたいと考えておりますので、皆様のご意見を伺いたいと思います。
- 社会教育委員の会議はあと1度、おそらく年度末になろうかと思っております。そこで議論したのでは間に合いませんので、おおよその方向性を決めておきたいと思っております。社会教育委員の会議は、教育長からの諮問を受けて議論・答申する場合と、社会教育委員が独自に地域の課題について考えながら報告書をまとめる場合がありますが、当会議は後者のやり方になるかと思っております。私としては、5回の講座の内容を踏まえて、今後の石狩市の社会教育のあり方について、最後の社会教育委員の会議で報告したいと考えております。ついては、各講座の録音を文章に起こす必要があります。この作業についてはいかがいたしましょうか。
- 東課長 : もし委員の皆様で作業が可能な方がいればお願いできればと思いますが、事務局でお手伝いいたします。
- 木村委員長 : 私と大橋副委員長は作業できるのではないかとありますが、各講座を担当いただいた委員の皆様には、A4サイズ1ページ程度で、準備のプロセスも含めて簡潔にまとめていただきたいと思っております。写真と報告者の資料を加えると良いと思っております。その作業は私と事務局でおこない、第3回目の会議の前にお配りして、それに基づいて会議をしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。
- 古村委員 : 録音データはいただけるのでしょうか。
- 木村委員長 : 公開して差し支えないものですので、事務局からお渡してください。
- 大橋副委員長 : 厚田の講座で、帰りのバス中で参加者に感想を書いていただきましたが、参加された市民の感想や、講師の声なども掲載していただければ良いと思っております。また、単なるアンケートではなく、地域の方とのやり取りも含めて、地域課題の掘り起こし方もわかると良いですね。
- 木村委員長 : 社会教育委員長からの講師へのお礼と、関わっていただいた感想、石狩の社会教育にどんなことを期待するか、アンケート的なものをお送りして書いていただくということはいかがでしょうか。
- 石井委員 : 1回目の講座で当日司会しただけで、もっと準備段階から主体的に関わればよかったという反省点がありました。

木村委員長：そういった反省点なども書いていただければ良いと思います。編集段階で変更があるかもしれませんが、まずは率直なご意見をお願いします。

東課長：この取り組みをするために昨年度の会議で話し合い、今年実際に動き始めている訳ですが、社会教育委員として自ら動くことがどのようなことなのか、という点も今回の大きなテーマですので、実際にやってみての反省点をお寄せいただければと思います。

石井委員：第1回目の講座で、民生委員の鷺尾さんが制度の流れを話してくれましたが、最後に参加者の方が言ってくださった意見こそ、私達が聞きたい内容でした。自分たちの周りで現実に行き始めていることがわかりにくくなっているのが、大変貴重な意見でした。

木村委員長：この講座で大切なことは、まず社会教育委員が地域の課題を知って、地域のリーダーとして学んでくださっているということです。また、報告者も自分の活動を振り返りながら、社会教育の重要性に気付いていただければということです。報告者同士でも、新たなネットワークの可能性などが広がる可能性もあります。行政の立場としてももっと積極的に考えていただきたいと思います。地域の課題を学習課題として企画していくときに、協力していく相手のヒントにもなると思います。私としては、大変楽しく取り組んで行けるのではないかと思います。それでは、これで第2回目の石狩市社会教育委員の会議を終わります。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成25年10月30日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木村 純